



© たかなし しん / WAHA

松風歯科クラブ会員様特典 情報誌

Vol. **105** 春号

2025年4月発行

ha・ha・ha

SHOFU INC. SHOFU SHIKA CLUB
founded in 1922 founded in 1976 もうすぐ50周年!



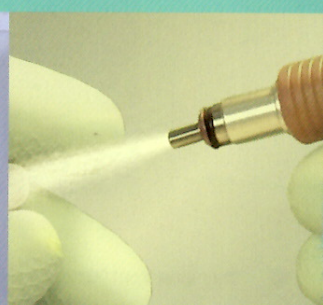
グロスマスター ZR

CONTENTS

滑沢に
2ステップ研磨で
ジルコニア・
ニケイ酸リチウムを

- ① 歯科用ゴム製研磨材
グロスマスター ZR **新製品**
- ④ CAD/CAM用高透光性セミンタージルコニアディスク
松風ディスク ZR ルーセント スープラ A4 **追加発売**
- ⑤ 自己接着性レジンセメント
ビューティリンク SA **オートミキシング** **追加発売**
- ⑥ 歯科用3Dプリンター
S-WAVE 3Dプリンター IMD-S **新製品**
- ⑦ S-WAVE 3Dプリンター IMD-S 専用インク
S-WAVE Print シリーズ **新製品**
- ⑧ 熱可塑性レジン歯
ベラシアSA フルアーチ **新製品**
- ⑨ デジタルを応用した新しい義歯製作システム
特集/**S-WAVE デジタルデンチャーシステム**
- ⑬ 薬用マウスウォッシュ
歯科用リステリン® **新製品**
- ⑮ ハイラスター オーバルジェット用 酸化アルミナ
松風ホワイトアルミナ **新製品**

- ⑬ Digital Dentistry NEWS & User VOICE Vol.106
S-WAVEシリーズ Vol.18
松風S-WAVEシステム ユーザー様へのアフターフォロー
Interviewee 今井 和重 様/デンタルシアター
- ⑮ **Giomer User INTERVIEW Vol.50**
困っている患者様を減らすためにGiomer製品を使う。
メーカーの枠を超えてS-PRGフィラーを広めて欲しい。
Interviewee 八木 正樹 様/医療法人 八木歯科
ビューティファル フロー プラス X
PRGプロテクトシール
PRGプロクアジェル α
Giomerセミナー開催希望フォーム・
Giomerカード & ポスター
- ⑲ - 古都で活躍する人たち- 古都爽風 Vol.77
木工アーティスト
多胡 歩未 様
- ⑳ 患者様とのコミュニケーションに役立つ
はいくだより Vol.12
第14回 歯の俳句・川柳募集
- ㉑ 松風歯科クラブ特典活用術
最新情報のキャッチ方法 3選
- ㉒ **SHOFU SHIKA CLUB HANDBOOK・**
2025年度 会員証 **重要**
- ㉓ **読者アンケート&プレゼント**
コラム 京都の「七不思議」をめぐる①



Passion for life 古都で活躍する人たち

古都爽風 77

「木」との関わりを通して 伝えたい、いのちのあり方。

森を知り、体験を重ねて、人に寄り添う。



赤ちゃんのガラガラ(グッド・トイ受賞)



木工アーティスト

多胡 歩未様

Ayumi Tago

「歯医者さんに行くと、歯科技工士さんの使われている先端工具が気になって、まじまじと見たくて仕方ありません(笑)。木工の工具よりずっと繊細なんですね。抜いた自分の親知らずをいただいて帰って、家で削ってみて家族に引かれたことも(笑)」

1978年生まれ。武蔵野美術大学短期大学部卒業後、おもちゃ教材会社勤務を経てドイツに渡り2年半の修行を積み帰国。2004年京都府加茂町におもちゃ工房「arumitoy」をオープン。「グッド・トイ賞」ほか多数受賞。森といのちの循環をテーマに、近年では絵本や漆塗りの作品など、アートの分野にも幅を広げる。

arumitoy <https://arumitoy.net>



いのちのことを考える絵本
『たましいのおうちの物語』

木のおもちゃ作家を志しドイツへ

ここは、幻の都「恭仁京」跡で知られる京都府木津川市加茂町の瓶原(みかのはら)地区。里山の豊かな自然に抱かれた田園のなかに、木のおもちゃの工房「arumitoy」がたたずむ。多胡歩未さんは、ドイツのおもちゃ工房で修業後、今から約20年前にこの地で工房を立ち上げた。子どもの頃から工作が大好きだったことから、自然の材料を使い自分の手でつくれる木のおもちゃ作家を目指し、その本場であるドイツで学ぶことを決意。美術大学を卒業後、おもちゃの企画制作で働いて資金を貯め、渡独をかなえる。まずは現地の学校で語学を習得し、工房めぐりを始めたのは、渡独から4か月後。ドイツ国内を文字通り放浪し、おもちゃ工房を訪ね歩く日々のなかでついに運命の出会いを果たした。「外から工房を見たときから、ここはいいぞという感覚があって、師匠が扉を開けて出てきた瞬間にピンとききました。普段、直感で生きているタイプではないのですが、そこは工房の雰囲気とボスの人間性にふれたとたん、心が決まったのです」。弟子入りも快く許され、それから2年にわたり工房を手伝いながら木の扱い方や制作の流れを学んで帰国した。いよいよ自分のおもちゃ工房を開こうと場所探しをするうちに見つけたのがこの加茂町瓶原地区だった。「最初の工房は、今の場所の近くにあった掘り建て小屋のような建物だったんですけど(笑)。この地区の自然豊かな環境が、修業した師匠の工房に似ていたのに惹かれました」。これもまた、運命の導きだったのかもしれない。

森を知り、見えてきたこと

「始めた頃はビジネスのことを全然わかっていなくて」と多胡さんは当時を振り返る。「ただ自分がいと思うものをつくれれば、きっと世間にも受け入れられると信じていたんです。私はたまたま、取材を



学生時代に考えた積み木パズルブロック



ひっぱって動かすおもちゃ(グッド・トイ受賞)



想像力を育む知育ブロック(グッド・トイ受賞)

受けたり、お客さまに恵まれたりして、口コミで少しずつ広がっていきましたが、今思えばビギナーズラックのようなものです」と語るが、arumitoyのおもちゃを拝見すると、人気を得たことにも納得できる。木ならではの素朴な味わいに加え、愛らしいフォルムに秘められたさまざまな仕掛けは、子どものみならず大人をもあっと驚かせ、笑顔にさせてくれる。ユニークな発想の秘訣を聞くと「年の離れた弟がいて、一緒に遊んでいたこともあるのかな。私の感性は、ずっと3歳児のままなんです」と笑う多胡さん。「まず自分が楽しいと思えるものをつくること」というポリシーを維持するのは、そんな純粋さに宿る強さなのかもしれない。やがて子育てという体験によって作品への新たな視点を得たことも力になった。「娘やその友達の遊び方を見ることは、いわば自分のつくってきたものの答え合わせになりました。発達段階で遊び方も求められる機能も変わることがわかり、これはこうだから何歳くらいのお子さんが喜ぶますよ、というお客さま目線での発信ができるようになりました」。こうしてビジネスのノウハウは、「後付け」の経験によって培われていった。さらに、自らを「木材フェチ」と呼ぶほど木を眺めることが好きだった多胡さんが、木や森について学び始めたことも、活動の幅を広げるきっかけとなった。「今の日本の森の惨状は、決して見過ごすことのできないものでした。人工林は、人間が介入し続けなければ健全な状態を保てないのに、放置されているためにさまざまな弊害が起きています。そうした問題をユーザーの一番身近にいる私が伝えなければという使命を感じました」。そこでワークショップなどを通じて木の活用に取り組み、森の現状を直接子どもたちに伝えるように。「森を守ることは未来の私たちの暮らしを守ること。そのためにどう行動すればいいのか考えようと話をします」。また、根源的

なこととしてとらえているのが、森のなかで行われているいのちの循環だ。「木はいのちを終え、土になって次のいのちを育む。それは自然界の縮図でもあります。森のあり方は人間関係にも通じていて、森には明るい日なたの部分があれば、じめっとめぐるんだ部分もあり、交わりはしないけれどもどちらも森が生きていくために必要なもの。人間社会も同じで、異なるものを認め合い、無理せず共存していくことが大事。悩んだときは森を見習おう。これが木と関わってきて、たどりついた私の境地です」。

いのちをつなげる物語

また、いのちの向き合い方は、ライフワークである「たましいのおうち」に託される。木工作品でつくり出す今は亡きいのちの居場所づくりを通じて、家族のかたちをともに考え、サポートをする活動だ。そのベースには、多胡さん自身が息子さんを喪った体験がある。「時間はかかりましたが、目に見えない世界や心理学を学ぶことで少しずつ立ち直り、息子の居場所として『たましいのおうち』をつくることで、私も家族も楽になりました。いのちが循環する森のありようとも重ね、『見えなけれど、一緒に生きている』と感じられるようになったんです。作品を介して、同じ体験をした方の心を軽くするお手伝いができればと思っています」。喪失の悲しみを越え、いのちのあり方をとらえ直すあたかな世界観が、人々の心をやさしく包み込む。「昔から、自然や人の心、いのちのことにも興味をもっていました。木工作家となり体験してきたことがつながって、今のすべての活動につながっているんですね」。「木」を通じて表現されるいのちの始まりと終わりは、子どもから大人までさまざまな人々の心に寄り添い、歩み出す背中をそっと押してくれる。



オーダーメイドの手元供養「たましいのおうち」

- | | |
|---|------------------------------|
| 1 | 1 ショップを兼ねた工房は、風景になじむ古民家。 |
| 2 | 2 店内にはワクワクするようなおもちゃが並ぶ。 |
| 3 | 3 ワークショップは、いつも大盛況。 |
| 4 | 4~6 木の香漂う工房にて。木と真摯に向き合う多胡さん。 |
| 5 | |
| 6 | |